

3 活用を広げるための課題とその取組

子どもによる「心のノート」の活用が今後一層広がり、充実するようにするための課題としては、例えば、次のようなことなどが考えられる。

(1) 学校としての用い方の方針を決め全教職員で共通理解を図る

「心のノート」は、学校の特色や地域の実態に応じて教育活動全体に生かすことができる。したがって、学校として「心のノート」をどのように生かすかについて、教育方針の一環に位置付けるとともに、学校の全教職員で共通理解を図ることが大切である。

さらに、その方針を受けて、各学年、各学級での具体的な生かし方について検討する。その際、道徳教育推進教師や学級担任等の創意工夫が生かされるようにすることが大切である。

(2) 道徳教育の計画への位置付けをする

「心のノート」は、教師の創意ある用い方があってこそ、子どもの活用が促される。そのために教師は、自由に工夫しながら用いたいという思いがあり、指導計画に位置付けていると制約されるという声も聞かれる。確かに、子どもの実態に応じた多様な用い方は、子どもを目の前にした教師のそのときどきの柔軟な対応に負うところが大きい。

しかし、学校としての用い方の方向に一貫性をもたせ、それを確保するものは指導計画である。また、「心のノート」は2～3年間で共通の内容を用いるために、学年間、学級間の用い方のバランスをとる上でも、計画への位置付けが必要となる。

道徳教育の計画に位置付けるには、例えば、次のような手順を踏むことが考えられる。

- ①道徳教育の全体計画への位置付け……例えば、「心のノート」の生かし方の方針、日常での活用の促し方、道徳の時間での生かし方、家庭や地域社会との連携における生かし方などを位置付ける。
- ②道徳の時間の年間指導計画への位置付け……道徳の年間35時間（小学校第1学年は34時間）の中の一定の主題の学習場面に活用できるように位置付ける。また、教師の創意工夫によって、計画にない場合も柔軟に用いることも考えられる。そのことも含め、用いたときの記録欄を設けることが、次年度に生かされるようになる。

なお、「心のノート」を子どもが複数学年用いる間に、学級担任が変わったり学級編成替えをしたりすることもある。学級によって用い方の特色が出るのは当然であるが、その調整を図ることや次学年への引継ぎ事項とすることが必要になる。

(3) 道徳教育推進教師の役割として位置付ける

平成22年度から、「心のノート」が文部科学省のホームページからダウンロードして用いられるようになったことにより、これまで以上に、校長の方針に基づいた学校としての計画的、発展的な活用が求められる。そこで、学級担任等が適宜ダウンロードして活用するだけでなく、道徳教育推進教師が中心となり、教育方針や教育活動と関連する「心のノート」のページをダウンロードして教職員に配布するなど、積極的に情報提供する役割が求められる。

例えば、次のような機会が考えられる。

- ・年度当初に、自分の特徴を記録できるページ（フェイスシート等）を用い、各学級の自己紹介の機会に生かす。
- ・「あいさつ運動」や「人権について考える週間」など、特定の期間に取り組む活動に関わ

りのあるページを用い、事前や事後の指導に生かす。

- ・懇談会や保護者説明会等の資料として用い、家庭や地域社会との連携に生かす。
- ・全校朝会等の校長講話として用い、教育方針の徹底等の指導に生かす。

道徳教育推進教師は、常時、道徳教育の全体計画や年間指導計画等に目を通し、「心のノート」を用いて、全教育活動における道徳教育の推進、充実に努めることが大切である。

(4) 子どもの思いや子ども一人一人の事情等への配慮をする

「心のノート」には、子どもが自分の心の成長の記録として、心の内を書き出すページや記入欄が多い。したがって、特に小学校高学年や中学校段階の子どもは教師や保護者に見られにくいという思いになることもある。「心のノート」を用いるときには、そのような子どもの心情に配慮する必要がある。例えば、「心のノート」に記述した内容について、子どもが発表し合ったり、見合ったりするときには、子どもに理解や承認を求めることも必要になる。また、あるページを印刷し、その用紙に書いて交流するなどの方法も考えられる。

このように、個別への配慮をしながら、「心のノート」を介して心の対話などが深められるようにすることが大切である。

そのためにも、学級の中で、教師も自己を語る機会をつくるなどして、子どもが感じたこと、自分について考えたこと等が率直に語り合える雰囲気が醸成されるよう努めることも大切である。

(5) 一人一人が違う個性的なノートになるように援助する

「心のノート」は子どもが進んで活用するものであり、子どもや学級によって用い方が異なる。したがって、一人一人のノートの内容も自ずと個性的なものになる。授業の中で、共通の学習ノートの代わりに用いるだけの繰り返しでは、同じところしか書き込まなくなる。そこで、道徳教育推進教師や学級担任等が、事前に文部科学省のホームページからダウンロードした「心のノート」を用意するなどして子どもが自由に用いる環境をつくり、書き込む機会を充実させ、日常の活用につなげることが大切である。

また、記入したからといって、そのページが終わったということではなく、記入をさらに付け加えたり、見直したり、別の紙を貼り込んだりすることも考えられる。「心のノート」を文部科学省のホームページからダウンロードするようになったことから、子どもたちには、そのページをファイリングしながら、自分の個性的なノートが作られるようにするなど、継続的、発展的な活用への意欲を高める援助が必要である。

(6) 校内研修などの資料として生かす

「心のノート」は子どもが用いるだけでなく、教師が研修等に生かすこともできる。

例えば、道徳教育への理解を深めるために、「心のノート」活用のために」や本冊子等を併用して研修する方法が考えられる。また、「心のノート」の内容を参考にした調査項目や質問項目を設定して子どもの実態を捉え、指導に生かす視点について話し合うといった用い方も考えられる。さらに、各学級での子どもの活用の実態や教師の生かし方の工夫などについて、研修の場で報告し合い、情報交換を行うことによって、子どもの活用を促すための創意工夫を広げていくことができる。